



元年度第1回 刈谷市国際化・多文化共生推進委員会 議事録

■ 日 時 : 令和元年10月16日(水) 13:30~15:00

■ 場 所 : 刈谷市市役所701会議室

■ 出席者

団体名	役職等	氏名
愛知淑徳大学	名誉教授	榎田 勝利
国立大学法人 愛知教育大学	学生・国際課国際交流室長	三浦 秀樹
愛知県国際交流協会 交流共生課	課長	小山 豊三郎
刈谷市国際交流協会	常務理事兼事務局長	丸山 靖司
株式会社ベルテック	取締役専務	小池 ソニア
認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター	事務局長	熊澤 友紀子
市民委員		麻生 いづみ
市民委員		王 平
刈谷市役所 市民活動部	部長	西村 日出幸

■ 欠席者

団体名	役職等	氏名
刈谷市教育委員会 学校教育課	指導主事	濱口 留美
一ツ木自治会代表		及川 啓太
株式会社豊田自動織機	人事部グローバル人事室 海外勤務グループ長	小林 美保

■ 事務局

所属	補職名	氏名
市民協働課	市民協働課長	石川 領子
市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	藤井 昭仁
市民協働課	協働推進係長	酒井 武士
市民協働課	主事	加藤 祐騎
市民協働課	主事	西村 亜津
NPO 法人 NIED・国際理解教育センター	代表理事	伊沢 令子
NPO 法人 NIED・国際理解教育センター	事務局長	川合 眞二

■ 配付資料

議事次第、委員名簿

- 資料 1 刈谷市国際化・多文化共生推進計画の概要
- 資料 2-1 第 3 期重点協働プロジェクトの進捗状況
- 資料 2-2 6 つの目的の取組検討結果
- 資料 2-3 フィリピンコミュニティ設立総会及びイベントの概要
- 資料 2-4 KABARANGAY
- 資料 2-5 SBK (Samahan sa Barangay Kariya city) 会則 (案)
- 資料 3-1 刈谷市日本語支援団体連絡協議会について
- 資料 3-2 情報共有シート

■ 議事録

1 開会

- ◇ 配付資料について確認した。
- ◇ 出欠状況を説明し、委員会が成立していることを報告した。
- ◇ 本年度からの新しい委員を紹介した。
- ◇ 委員長が以下のとおりあいさつを行った。
 - ・ 3 人の新しい委員を迎え、本年度第 1 回の委員会を開催する。国際化・多文化共生推進にご尽力に感謝する。関東・東北の大洪水があった。その時に思うのは情報弱者である外国人はどのようにしているか、そうした情報は一切報道されない。外国人の情報弱者は多文化共生の課題である。
 - ・ 世界の都市の安全ランキングで東京は第 1 位、大阪が第 3 位である。一方、各国の駐在員が働きたくない国ランキングは、日本は 33 カ国中 32 位である。アジア諸国よりも日本は下位である。その原因は、外貨の送金の問題、キャッシュレスへの対応不足、家族同伴で日本に行く場合、費用面を含む現地受入教育機関の有無と入りやすさ、公的施設における英語対応不足、多言語対応など不十分な行政サービス、ワークライフバランスの悪さなど教育や行政サービスに関する不満であった。
 - ・ 何年も亘り、国際化・多文化共生委員会を進めてきたが、時代や状況に応じながら、対策を考えていく必要がある。今回は 3 つのプロジェクトについて報告があるが忌憚のない意見を伺いたい。

2 議題

(1) 刈谷市国際化・多文化共生推進計画の概要について

- ◇ 事務局が、資料 1 に基づき、刈谷市の外国人状況、中学校区別の外国人の状況、刈谷市国際化・多文化共生計画の目的、目的を達成するための取組、第 1 期・第 2 期までの成果、第 2 期重点協働プロジェクトの課題、それに対応した第 3 期重点協働プロジェクトの目標について

て説明を行った。

◇ 委員長の進行により、質疑応答、意見交換を以下のとおり行った。

委員長：成果の評価のうち「公共施設」で「低」評価が1つあるがこれは何か。

事務局：「外国人の互助体制を作る」が該当する。

委員長：「企業・職場」の評価が低いのはなぜか。

事務局：企業にあまり働きかけができておらず、「不明」や「低」評価となっている。

(2) 第3期重点協働プロジェクトの進捗状況について

ア 共生の地域づくり発展プロジェクト

◇ 事務局が、資料2-1に基づき、共生の地域づくり発展プロジェクトのワールド・スマイル・ガーデンの進捗状況、目標に対する成果と課題、今後の取組予定について説明を行った。

◇ 委員長の進行により、質疑応答、意見交換を以下のとおり行った。

委員：30年度の決算額に対して、令和元年度の予算額が少なくなっているが、これは何か。

事務局：30年度は多くの助成金を獲得したため、決算額が多くなっている。

委員長：10万円の収入はどこから得ているか。

事務局：社会福祉協議会、一ツ木自治会、いきいきシニア助成金、前年の繰越金である。

委員：南部地域で他にヒアリングした市民はいるか。

事務局：今回紹介した2人だけであるが、近所に住んでいるため連携して行えるとよいと考えている。

委員：いきいきシニア助成金はどんなものか。

事務局：過半数65歳以上で構成される団体が助成条件であるが、それにワールドデンは該当している。

委員：公共施設連絡バスを使った講座に参加した留学生の中から、その後自主的にワールドデンに参加する者もいて良かった。南部地域の外国人はどれぐらいいるか。

事務局：1,600人程度住んでいる。特に小垣江町が多い。

委員長：ワールドデンの取り組みが刈谷市外に波及した事例はあるか。

事務局：知立市、豊田市に広がっていると聞いている。

委員：南部地域の外国人の国籍はどうか。

事務局：平成29年10月時点のデータではあるが、フィリピン、ブラジル、中国が多い。近年ベトナムが増えている。

委員：ベトナム人は技能実習生の在留資格が多く、アプローチの仕方に悩んでいるが、刈谷市ではどうか。

事務局：日本語教室にベトナム人が多くいる。今後、ベトナム人コミュニティを形成していく予定である。

委員長：ワールドデンは組織化しているか。組織化することで助成金を取りやすくなる。

事務局：任意団体として設立している。また、規約も設けている。

委員長：組織としての体制、顔の見える関係をしっかり作ることが大切である。

委員：愛知教育大学の留学生は刈谷市在住か。イベントは愛教大の留学生向けか。愛教大以外の留学生も刈谷市には住んでいるので、できるだけ限定しないようにしてほしい。他の大学にも声をかけるとよい。

事務局：公共連絡のバス講座については、愛教大に協力してもらい愛教大の留学生向けで行った。愛教大以外の在住留学生に対してはまだできてないが、ワールドデンには広く留学生に参加してもらいたいと考えている。

イ 外国人の参画と共助プロジェクト

◇ 事務局が、資料2-1および資料2-2～資料2-5に基づき、外国人の参画と共助プロジェクトのフィリピンコミュニティづくり支援の活動実績、目標に対する成果と課題、今後の取組予定について説明を行った。

◇ 委員長の進行により、質疑応答、意見交換を以下のとおり行った。

委員長：フィリピンの次はベトナムで、その次の予定はあるか。

事務局：中国またはブラジルを考えている。

委員：ベトナムコミュニティはどんなイメージか。企業へのアプローチはしているか。

事務局：企業ではなく、日本語教室へ来ているベトナム人にアプローチしている。

委員：ベトナム人に対するアプローチは県内では刈谷市が初めてではないかと思う。今後情報提供してほしい。

委員長：フィリピン人は英語ができるか。

事務局：英語を話せるし、多くは日本語も話せる人が揃っている。

委員：愛知県はフィリピン人の割合が多い。愛知県国際交流協会では定期的にフィリピン出張領事館としての場を設け、フィリピン人に対する支援を行っている。

委員：ベトナム人は日本語教室に通っている人が多く、日本語も上手で交流は日本語で行えている。個人的に、ベトナム人の知人がいるが、その人は永住資格があり、会社の人と仲良くしている訳ではなく、教会の人と付き合いがある。その教会には県外からも多くのベトナム人が通っている。自分もその人から病院などについての相談を受けることがあるし、結婚式にも呼んでもらう仲になっている。その結婚式はベトナム式で、多くのベトナム人が遠方から来ており、ベトナム人には横のつながりがあると感じた。

ウ ESD推進プロジェクト

◇ 事務局が、資料2-1に基づき、ESD推進プロジェクトの活動実績、目標に対する成果と課題、今後の取組予定について説明を行った。

◇ 委員長の進行により、質疑応答、意見交換を以下のとおり行った。

委員長：グローバル講師が少ないというのはどういう状況か。

事務局：愛教大の留学生がほとんどで、それ以外の区分の講師が十分に確保できていない状況である。

委員：キャリア系のプログラムは面白い。

事務局：キャリア系のプログラムでは海外赴任経験者に講師に来てもらえるとよいと考えている。例年刈谷北高等学校から要望がある。

委員：講座を開催したのは小学校だけか。

事務局：これまでは小学校だけである。中学校は全学年実施となるとクラス数が多く、同時にそれだけの講師やファシリテーターを確保するのが難しい状況である。

委員：中学校だと職場体験があるので、外国人と働く、海外に赴任するということに対応するとよい。体育館を使って全クラスでやってもよいと思う。

委員：計画書 P. 62 の町別外国人の表をみると、自分は丸田町在住であるが 62 名の外国人がいると初めて知った。グローバル講師に地域に住む外国人を呼ぶとよいのではないか。それが地域の多文化共生につながるのではないか。

事務局：これまでも同様な意見はもらっている。しかしーツ木町のワールドデンにおいても同様に地域の外国人に呼び込むこともなかなか難しい状況であり、そこが悩みである。課題としては認識している。

委員長：地域にいる学生にはコミュニケーション能力のある人がいるので発掘できるとよい。教育委員会が大きな壁である。公民館、親子など社会教育現場にも ESD を広げられるとよい。成果が上がれば学校現場も変わるのではないか。

事務局：実施している学校から口コミで広げていきたい。実績を重ねて少しずつアプローチしていけると良い。

委員：ESD 出前講座にグローバル講師に依頼いただいた。今後もこの講座のお手伝いできたらと思っている。

(3) 日本語支援団体連絡協議会について

◇ 事務局が、資料 3-1～資料 3-2 に基づき、日本語支援団体連絡協議会について説明を行った。

◇ 委員長の進行により、質疑応答、意見交換を以下のとおり行った。

委員：取り出し授業とは何か。

事務局：対象児童を教室から別の教室に移ってもらって個別に授業を行うことである。

委員：技能実習生の日本語学習は、企業や監理団体が行うべきであるが、ボランティアが運営する日本語教室に来ていて定員が溢れている。企業との棲み分けが必要である。

委員長：商工会議所が日本語教室に興味があるとのことだが。

事務局：商工会議所の考えとしては、自分たちで日本語教室をやりたいが、運営方法がわからな

いことが課題となり、進んでいない。

委員長：運営方法について支援し、企業による日本語教室をやりやすい環境づくりが大切である。

委員：愛知県には192教室がある。日本語ボランティア入門講座にも定員30名のうち68名の応募がある。日本語教室をやりたい人も増えていると思う。ただし、受講料が無料または安価のため、技能実習生が大挙して訪れている実態はある。商工会議所に働きかけても乗ってこないことが多い。刈谷市はぜひモデルケースとして実現できるとよい。

委員：外国人雇用研究会ができて、勉強会を行っていて、自分も参加している。そうした場で情報提供していくとよいのではないか。

委員：愛教大日本語リソースルームに対して商工会議所からアプローチがあったが、今現在行っている学校に入り込んでの日本語、学習支援においてもボランティアが少なくなってきており、お断りした経緯がある。また、企業人事の方にボランティアを要請したが断られた状況である。

委員長：外国人に日本語を教えたいという学生は多くいるが、仕事につながらないので、青年海外協力隊や海外で仕事を見つけることになっている。また、市民ボランティアに対しては、無償が多いが、交通費や有償仕事にするような支援が必要である。刈谷市では有償の部分はあるか。

事務局：直接個人に対して費用は支払っていない。会場費などは刈谷市国際交流協会が負担している。

委員：日本語学習のための教材はあるか。

事務局：刈谷市国際交流協会ボランティアが行っている日本語教室は、独自で購入して使っている。

委員長：ボランティアの善意だけでは持続しない。

3 その他

◇ 委員長が、全体を通しての意見を募った。

委員：初めて参加して、刈谷市として素晴らしい取組をしていると感じた。認定NPOアジア車いす交流センターにはリソースがあり、「交流活動、人づくり」を進めているので、協働していきたい。

委員：4月に入管法改正した後の令和元年10月時点の外国人人口は5,176人であり、極端には増えていないが、一定の割合で増え続けることが予測される。そのことを前提に施策を打っていきたい。

◇ 事務局が、次回は3月16日（月）10:00～11:30を予定している旨、連絡した。

◇ 委員長が、閉会を宣言して終了した。